

121207 葉場山火口（ハバヤマボクチ）

今日 12 月 7 日は二十四節季の「大雪」(たいせつ)、雪が激しく降り始める頃、とされていますが、まだ日本ではそれほど大雪になる時期ではないですね。

そもそもこの“二十四節季”は、中国の気候を元に名づけられたものですので、日本の気候とは必ずしもぴたり合うわけではないようです。

この時期には、「寒ブリ」などの冬の魚の漁が盛んになり、クマが冬眠に入る頃だと言われています。

さて、岩湧山の山頂草原では、これまで“大柄の「アザミ」かな？”と思っていた植物が、長い綿毛を付けた種子を風に乗せて飛ばしていました。

この植物、10 月頃にうつむき加減に開花したのか、紫色の部分が見えたのですが、アザミのように鮮やかな総萼片を大きく広げるわけでもなく、“いつまで蕾のままなのか？”とっていました。

でも、この蕾のような状態の花に「マルハナバチ」が訪れていましたので、気になって図鑑で調べることにしました。

名前は「ハバヤマボクチ」、その響きから、何やら外来種のような印象を受けるのですが、「葉場山火口」という“和名”を持った、キク科(アザミもキク科)の在来種だったのです。

「葉場山」(ハバヤマ)とは、“草刈場のある山地の草原”のことを言い、また、葉の裏の白い綿毛を乾かしたものを「火口」(ホクチ = 火打石から火を移し取るもの)として用いたようで、これらを合わせて命名されたようです。

残念ながら全国的に草刈りの実施が少なくなり、植生遷移の進行(草地から樹林地へ)や開発などにより自生地の減少が顕著となり、兵庫県では「絶滅危惧 類」に、奈良県では「絶滅危惧 類」に位置づけられる状況となっています。

写真 : ハバヤマボクチの蕾(つぼみ) 【撮影：9月上旬】

日当たりの良い草地に生え、草丈は1~2mと大形です。

写真 : 開花直前 【撮影：9月下旬】

蕾の中央部が開いてきて、中から紫色の花が見えてきました。

写真 ・ : 開花 【撮影：10月中旬】

花の直径は5cmほどで、クモの糸のようなもので覆われる総萼片は触ると痛いです。

写真 : トラマルハナバチの訪花 【撮影：10月下旬】

花弁は枯れているような暗紫色ですが、ハチ類には人気のようです。

写真 : 結実 【撮影：10月中旬】

写真 ・ : 種子 【撮影：11月下旬】

長い綿毛を付けた種子が実りました。















